

令和 7 年度 豊橋市健幸なまちづくり協議会生活習慣病対策部会 議事録

日 時	令和 7 年 11 月 20 日（木） 13:30～14:40
場 所	豊橋市保健所 第一会議室
出席者	豊橋市健幸なまちづくり協議会生活習慣病対策部会委員 8 名
事務局	健康増進課
事務局	<p>&lt; 2 議題 （1）豊橋市の特定健康診査等の現状及び受診率向上について&gt; 資料 1－1、1－2、1－3 について説明</p>
A 委員	<p>愛知県内で豊橋市は医療費が高いと伺うが、都会と地方と比べて医療費が高い傾向にあるのか。また、特定健康診査に対して国からの補助等があると思うが、とれくらいの割合でもらえるものか、受診率との関係性はどうか教えてほしい。</p>
事務局	<p>自治体ごとの医療費の違いは把握していない。受診率が上がれば国からの交付金はあるが、同規模自治体の中で上位に入れば多くもらえるが、下回ると減額される。豊橋市は下の方に位置している。</p>
A 委員	<p>がん検診の受診率をあげるのに、検診費用のこともあると思うが、もう少し多くの対象者に受診券を配布するとか、特定健康診査とがん検診の受診券を同時に配布する方法などは難しいことなのか。</p>
事務局	<p>受診券の発送については、現在節目年齢に該当する方や、過去 2 年以内に受診している方には受診券を発送しているが、それ以外の方には発送していない。国保加入者は、基本的に他で受診する機会のない方が多いため、一緒に送ることは有効と思う。</p>
A 委員	<p>コストパフォーマンスもあるため、やみくもに配布するものではないが、受診率を増やすのであれば、送付する数を増やす方策も良いと考える。他に何か意見があるか。</p>
B 委員	<p>一般的に医療費は病院数や医師の数などに比例し、都市圏の方が地方圏よりも、医療アクセスしやすいため、医療費は上がりやすい印象がある。豊橋市は、愛知県内でも 5 番目に位置する大きな市であり、健診受診率が伸び悩んでいるということだが、当支部事業において、被扶養者の特定健診を、豊橋市とのコラボによりがん検診を同時実施したり、当支部独自で健診機関と契約をしてホテルなどに会場を設けた集団健診を用意している。また、その場で保健指導を行い、被扶養者の保健指導につなげていくように取り組んでいる。</p> <p>これらを踏まえ、健診受診率向上につなげる 2 つを紹介したい。</p> <p>まず 1 つ目が被扶養者の特定健診は、豊橋市とのコラボによりがん検診を同時実施しており、令和 6 年度の実績は 150 人の枠で 110 人が受診をしている。また、当支部独自で令和 7 年度豊橋市内で 2 3 回、受け入れ人数最大 2,200 人の集団健診を実施している。主にホテルなど 4 か所で実施する。豊橋市の被扶養者の方の受診状況を見ると、5・6 月</p>

	<p>の開催分が 250 人中 137 人、7～9 月の開催分で 189 人中 54 人であり、3 人に 1 人ぐらいの方しか来ていただけていない時期があるという状況が確認できた。</p> <p>ホテルなど広い施設で実施しており、がん検診は実施できないが、オプション健診として眼底検査や骨粗しょう症検診が希望者は無料で受けられる仕組みとなっている。</p> <p>愛知県全体のデータではあるが、眼底検査や骨粗しょう症検診は人気があり、当該集団健診を利用する場合に、90%の方が受けている。当該集団健診は豊橋市とのコラボで実施するものに比べても会場の受け入れ人数が多いため、認知度が上がれば、被扶養者の特定健診受診率の改善につながるのではないかと考えている。</p> <p>2 つ目は、被保険者の事業者健診結果データがもっと取得できると良いと思っている。生活習慣病予防健診としてバリウムによる胃がん検診や便潜血反応による大腸がん検診を含んで実施しているが、愛知県内でバリウムによる胃がん検診を避ける業態も多く、生活習慣病予防健診の受診率は令和 6 年度 53%程度となっている。それ以外では、バリウムによる胃がん検診がない労働安全衛生法に基づく事業者健診結果データ提供を受けて取り込んでいくという仕組みで受診率を増やしている状況である。</p> <p>直近のデータでは、豊橋市内の適用事業所が 6,000 社程度あるが、そのうち事業者健診結果データの提出があるのは、1,160 社であり、5 社に 1 社しか提出がない状況であり、近隣の豊川市、新城市、蒲郡市や西尾市と比べても低い状況となっている。事業者健診データを取得できると受診率が上がるが、事業者健診を受けていても、データの提供がないと、受診率が増えないということになる。</p> <p>まもなく保険証が廃止されマイナンバーカードが主流になるが、マイナポータルで健診結果が閲覧できる状況になっており、データの提供がないとそこにもデータが反映されない状況となる。</p> <p>従業員数 50 人以上の事業所であれば、労働基準監督署に報告義務があるため、健診は受けているはずだが、従業員数 50 人未満の事業所の健診受診状況は掴めていないため、豊橋市内の適用事業所に事業者健診結果データの提出に関する周知広報ができる機会があると良いと思っている。</p>
A 委員	医療機関からの医師の積極的な受診勧奨は効果があるということだが、いかがか。
C 委員	<p>受診者に声をかけると、封筒が届いていたことには気づいているが、「病院にかかっているからいいや」ということがある。定期検査の一環として受診券を利用した方が得であることを伝えと、受診してもらえよう。今、インフルエンザの予防接種券が市から届いているため、高齢者の方へはこれと一緒に 1 月まで使えると伝えている。</p>
事務局	<p>&lt; 2 議題 （2）検診結果とレセプト分析からみる健康課題</p> <p>ア 特定健康診査結果の状況と健康づくりに対する取り組み&gt;</p> <p>資料 2－1、2－2 について説明</p>
D 委員	<p>豊橋市が HbA1c や糖尿病の有病率が愛知県や全国より高いというのはもう何年も前から出ている内容だが、その原因をある程度、市で把握しているのか。また、専門医の立場</p>

C 委員	<p>として豊橋市は全国とこういったところが違うから病気の人が多いというような感覚的なものなどあれば教えてほしい。</p> <p>以前、食事や運動に関するアンケートを医療機関に行ったところ、医師が患者さんを診ていてという範囲とはなるが、やはり果物を大変よく食べているということがあげられた。果物は健康的なイメージがあるが、摂り過ぎれば血糖値に影響することとなる。食べ方を少し考えた方が良いのでないかと患者さんにアピールしていくことも大事なことで感じている。また、地方都市の問題として、どこに行くにもすぐ車に乗ってしまい本当に運動量が少ない。そのあたりは関係すると思う。果物は別として、運動量や食事のバランスについては、地方都市ではいろいろと言われるところをどのように啓発していくのかということが大事である。こういうことを市で調べてもらおうと愛知県や全国と比較してどのようなところが原因か分かると思う。</p>
事務局	<p>具体的にしっかりとしたデータはないが、国民健康・栄養調査などで傾向を見ると、愛知県全体で野菜摂取量が少なく、豊橋市も傾向として少ない状況がある。車で移動してしまい、歩かないなどの運動習慣も関連があるため、野菜をたくさん食べましょう、たくさん歩きましょうということを中心に事業の展開を進めている。傾向として見えているところから取組を行っている。</p>
E 委員	<p>メタボの該当者と予備群について、年齢が 40 歳以上を対象としたデータのため、やはり高齢化するにしたがってメタボ該当者は増えてきていると考える。データで HbA1c の高い年齢層が見えてくると、ウォーキングイベントの実施等のアプローチをどの世代に行うと、メタボ予防につながるかの効果がみえてくると思う。行った取組に対する効果を明らかにするには、ターゲット層を絞ることも良いと思う。また、小学校からの健康づくりや食育の取組は結果がでるのにかなりの時間がかかるが、これからに向けて大切と考える。メタボもそうだが、若い世代の女性のやせも、最近話題となっている。その年代が 40 代になる頃に健康問題につながっていくため、豊橋市としてターゲット層について考えているところがあれば教えてほしい。</p>
A 委員	<p>健康づくりを子供時代から習慣化することが大事ということで、学校での取り組みについて意見を伺う。</p>
F 委員	<p>ここ最近、学校現場の方で新しく取り組み始めたところを 2 つほど紹介させていただく。1 つは、体力向上として、小学生を対象に縄跳びを取り上げている。縄跳び運動は体力向上に大きく期待でき、体格差をあまり感じることなく手軽に取り組める。今年度から 1・2 月に学校ごとで飛び方ごとの上位記録を市全体で見ることができるようにして、イントラネットワークに掲載し、それぞれの学校が今どれくらいかわかるような仕組みにして縄跳びによる体力向上を図る取り組みを始めた。</p> <p>もう 1 つは昨年度からメディアコントロールチャレンジという、YouTube や SNS、ゲームなどうまくつき合っていくセルフコントロールができるような力をつけていくと</p>

	<p>いうことに取り組んでいる。それぞれ 5 項目あり、レベルがあり目標設定をして年に 2 回、2 週間くらい、それぞれでチャレンジし、達成できた、できなかったを点数化して成果が上がっていない場合は養護教諭や担任の先生が原因を一緒に考え指導していくという取り組みを昨年度から令和 8 年度まで行う予定。</p>
A 委員	<p>縄跳びは効果が出そうか。</p>
F 委員	<p>期待している。</p>
事務局	<p>&lt; 2 議題 (2) 検診結果とレセプト分析からみる健康課題 イ 糖尿病の状況と糖尿病予防に対する取り組み&gt; 資料 3-1、3-2 について説明</p>
A 委員	<p>豊橋市と同様に血糖値が高いという傾向があると思うが、現在行っている保健事業について紹介をお願いします。</p>
B 委員	<p>基本的に血糖値が高い、代謝系の数値が悪い方は特定保健指導に該当してくる可能性が高くなる。まずは特定保健指導で生活習慣の改善をする必要があると思っている。</p> <p>数値が高く、健診結果で「要治療」、「要精密検査」と判定された方には、案内文書を送り、医療機関の受診を勧めている。定年退職後に国民健康保険に入る方が多いと思われるため、当支部としてまずは加入者の多くの健診結果を集めて、特定保健指導の対象に該当する方に対して、案内の上、特定保健指導を数多く実施したい。特定保健指導等の実施により代謝系の数値の維持改善に取り組むことで将来的に糖尿病になる方が増加しないように貢献できたら良いと思っている。</p>
A 委員	<p>専門医ということで、今豊橋が行っている事業について意見ををお願いします。</p>
C 委員	<p>医師会としては、糖尿病と診断された方の治療、重症化を防ぐという取り組みはかなり頑張っている。もう 10 年ぐらい、いわゆる早い段階で糖尿病の治療をする薬はかなり進んできている。合併症予防の効果がある薬や、ある程度定期的にチェックをして、段階で腎臓専門医との連携がとれるようなシステムを作り上げてきた。</p> <p>さきほど説明のあった腎臓お守りシールもそうであり、呼びかけをして重症化予防について取り組んでいる。問題はその前段階で、糖尿病と診断される入口、新規の発症の患者をどのように減らすのかが、なかなか医療の現場ではできないところ。糖尿病はほぼ健康と地続きで、血糖値が徐々に上がってきて、正常血糖値を超えていわゆる予備群。それがもう少し進んできて、空腹時血糖値 126 以上、随時血糖値 200 以上を超えてきたところで、糖尿病と診断される。</p> <p>しかし、自覚症状が何もない、体重もやせている人もあれば太っている人もあり、診断されるのを減らすには、予備群の段階で発見し、その方たちにできるだけ重症化予防の食事療法、運動療法を行っていくという地道な努力だと思っている。</p>

	<p>健康診断の受診率を上げ、早い段階で予備群の方を見つけ、呼びかけをしていくことしかない。医師会のレベルを超え、自治体として取り組んでほしい。</p> <p>また、ブルーライトアップについて、先日見に行ったが、ひっそり実施しているため、もう少し上手くマスコミを巻き込んでキャンペーンをやっていくと良い。</p> <p>ひっそりと青くするのではなく、もう少し声高に青くしてもらいたいと思っている。一般の方への呼びかけをぜひお願いしたい。</p>
事務局	<p>&lt; 2 議題 （3）医歯薬連携における糖尿病重症化予防</p> <p>医歯薬連携による重症化予防の経緯について説明</p> <p>資料4 について説明</p>
A 委員	<p>医歯薬連携については、歯科医師会、薬剤師会それぞれの立場で取り組んでいるため、現状について説明をお願いします。</p>
G 委員	<p>糖尿病の悪化に対して、歯周病を定期的に治療すると、重症化が予防できるというデータがあるため、歯科医師会としても積極的に取り組んでいる。今年度は、医歯薬連携重症化予防事業に関しては積極的に取り組んではないが、歯科医師会では、参加者に LINE グループを作り適宜情報提供する一方で、来年の 2 月に糖尿病専門医師を講師として呼び、歯科医師会から三師会に声をかけ、糖尿病の関係の講習会を開催する予定。</p> <p>また、1 点気になっていることとして、まだ国の概算要望の段階だが、企業検診で、簡易スクリーニングとして唾液等を使った歯周病検診ができるということであるため、それを来年以降実施できることを期待している。</p>
D 委員	<p>薬剤師会でも、会員薬局には全てこの糖尿病重症化予防プログラムに参加していただいている。どうしても関係の深い病院の属性との関係があり、内分泌クリニックの近くの薬局は積極的に働きかけをしている一方で、小児科等の近くの薬局で糖尿病の患者さんが来院することはほとんどないため、薬局間の温度差は出てしまいがちである。</p> <p>ただ、当然重要なプログラムであるということは認識しているため、積極的に参加をしているが、どうしても受診勧奨までが精いっぱいのところである。</p>
A 委員	<p>こういう医歯薬の連携は糖尿病だけではなく、いろいろな場面でやっていることのため、これからもうまくやれたら良いと思っている。</p>
事務局	<p>本日は貴重な意見をいただいた。今後も皆様方のご協力をいただきながら健康増進課で生活習慣病対策を進めていきたい。</p>